

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	飯田の木で家を建てるプロジェクト事業	会計	一般会計	事業No.	415	施策順No.	11-021
		事業種別	政策・重点	予算科目	6-2-2-26-6		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり	課等名			林務課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動	事業期間	開始	19	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	工務店等住宅建設業者（飯伊建築業協会登録業者等）					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない					
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)										
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度						
	市内工務店(数)		21	21	21	21						
意図	間伐材を含めた、地域(飯田市)産材を利用して住宅を建築した工務店等に補助金を交付する。											
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)					19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	地域(飯田市)産材を使って建てられた住宅戸数(戸)					5	6	8	10	8	11	B
	地域(飯田市)産材を使って住宅建築を行う施工業者数(社)					1	2	3	5	3	5	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ詳細】	制度を工務店に対するものに建築主まで拡大し価格も増額して、啓蒙したが着工戸数が落ち込んでいる影響が現れている。											

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>間伐材を含めた、地域(飯田市)産材を使用して住宅を建てることにより、間伐材の搬出効果も高まるため、飯田市内に本店及び営業所がある業者が、飯田市及び下伊那郡内に地域(飯田市)産材を一定の割合以上活用して、住宅を新築およびリフォームした場合に、施工した工務店及び事業主に対して助成を行う。対象住宅は飯田市産材利用啓発活動補助金交付要綱の対象であって、建築に使用する木材のうち、飯田市産材の使用量が10パーセント以上あること。 新築床面積 70㎡以上280㎡以下 木材使用量10%~30%未満 3万円 30%~50%未満 6万円 50%以上 10万円 リフォーム後床面積 50㎡以上280㎡以下 最低木材使用量および補助金額 新築住宅の概ね1/2 一業者 上限年度額 40万円</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	施工(新築・リフォーム)した工務店および事業主への補助(飯田産材利用割合に対して補助)	地域(飯田市)産材を利用した新築木造住宅建設戸数	8戸
23年度実施計画	市内の工務店が飯田市及び下伊那郡内に飯田市産材を10%以上使用して施工(新築・リフォーム)した場合に工務店および事業主への補助(飯田産材利用割合に対して補助)	地域(飯田市)産材を利用した木造住宅建設戸数	11戸

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		2,100	1,671	1,995		
計(A)		2,100	1,671	1,995		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			1,671			

4 事業に対する市民や議会の意見

既に、県や他市町村において住宅建築に対する支援事業があり、飯田市としても何らかの事業が求められていた。
 ・飯田市議会からは事務事業に対して、1、地元産材に対する市民の理解が得られていない。事業の目的を明確にして広く周知されたい。2、市民や事業者にとってメリットが感じられる事業展開を検討されたい。3、県森林税の活用を要望されたい。との提言がなされ、評価内容では「引き続き現行の事務事業を推進すべき」との評価結果であった。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	林業生産額(億円)
				経済的自立度(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	地域(飯田市)産材を利用した新築木造住宅建設戸数27棟、飯田市産材の利用拡大に繋がった。		
	後期に向けた課題	長引く不況のため住宅着工戸数は落ち込んでおり、交付条件、申請しやすい事業としたい。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	当初は工務店のみが補助対象であったが、事業主にも補助対象を拡大し利用しやすい事業となった。		
	後期に向けた課題	申請手続きの簡素化と補助金額の増加を検討する。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	利用拡大のため啓蒙活動を行なった。		
	後期に向けた課題	利用拡大のため啓蒙活動を行なう。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	住宅を建てるには、多額の費用がかかり、使用する材も安価な外材や他地域の利用が多いのが現状であり、いかに木材産業振興のため地元産材の利用を進めるかが課題である。		
	後期に向けた課題	住宅を建てるには、多額の費用がかかり、使用する材も安価な外材や他地域の利用が多いのが現状であり、いかに木材産業振興のため地元産材の利用を進めるかが課題である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	工務店及び事業主 地域の木材産業振興のために必要である。		
	後期に向けた課題	地域の木材産業振興のために必要である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	地域(飯田市)産材を利用した在来工法の新築木造住宅建設材として、飯田市産材の利用拡大に繋がった。		
	後期に向けた課題	木材産業振興のため地元産材の利用を進めるかが課題である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------